

自律的学習者育成のために必要なダイアログの機能は何か

What are the functions of dialogues to foster self-motivated learners

山川 修

Osamu YAMAKAWA

福井県立大学学術教養センター

Center for Arts and Sciences, Fukui Prefectural University

Email: yamakawa@fpu.ac.jp

あらまし： 自律的学習者育成を目的とした地域の問題解決型授業から出発して、対話の果たす役割を考察した。その結果、自律的学習者育成の観点からみると、ダイアログには、他者との信頼関係を創る「信頼」の機能、問いを立てメンタルモデルを変える「内省」の機能、自分の源を探り人生に意味を与える「意味」の機能があるという仮説を提案する。

キーワード：ダイアログ、対話、問い、関係性、意味

1. はじめに

2014年度から、自律的学習者の育成を目的に、複数の高等教育機関の学生でチームを組んで、地域の問題解決を図るPBL (Project-Based Learning) を実施している。その中で、PBLの経験を通して深く学習するためには、「問いを立てる(問い)」ことと「関係性を創る(関係性)」ことが重要であると考えている⁽¹⁾。また、これに続いて、「問い」と「関係性」が学習に対して、どのような役割を果たしているかに関するモデルを提案した⁽²⁾。さらに、このモデルにおける「問い」と「関係性」は、ダイアログの観点から統一的に見ることができると示した⁽³⁾。本論文では、「問い(内省)」と「関係性」に加えて、自律的学習者の要素として重要な、長期的な動機づけに関係する「アイデンティティ(複数の分野における自分の価値観の総合体)」を加えたモデルを提案し、ダイアログの機能に関して考察する。

2. 問いと関係性の役割

PBLにおいて深い学習を促す場合、「問い」と「関係性」が重要であることは(1)に示した。そして、「問い」と「関係性」が学習に対して果たす役割に関しては(2)でモデル化した⁽²⁾が、その概略図を図1に示す。

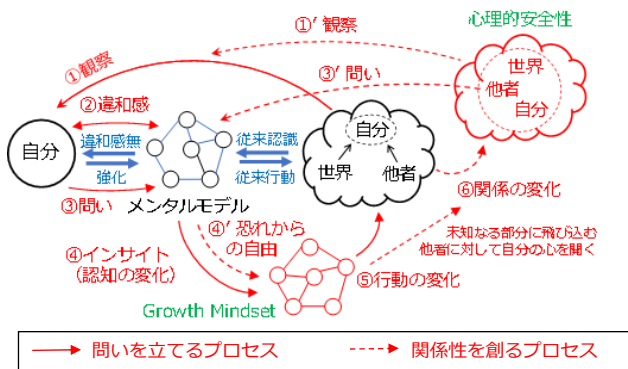


図1 学習における問いと関係性の役割

ここで、①～⑤までの番号付き実線の矢印は、問いが関与する部分であり、破線の矢印部分が、関係性が関与する部分である。この図では、「問い」は、メンタルモデルと観察との違和感から生じ、結果としてメンタルモデルを作り変え、より現実に即したものにすることに寄与する、こういった心の働きはドゥエックがいうところの Growth Mindset⁽⁴⁾に相当する。また「関係性」の変化は、行動の変化から派生し、心理的安全性⁽⁵⁾を構築することに繋がっている。

3. ダイアログによる統合

当初は、「問い」により Growth Mindset を獲得することが、4種類の不安・恐れ(無知、無能、ネガティブ、邪魔をする人)からの自由を獲得し、その結果、行動の変化→関係の変化とつながっていくのではないかと予想していた。つまり、「問い」→「関係性」という方向性である。しかし、統合失調症の治療方法として開発された、オープンダイアログ(OD)や、教育や福祉施設における問題解決の手法として開発された未来語りのダイアログ(AD)⁽⁶⁾という手法を見てみると、関係性の変化が一人一人の中にある問いを変え、メンタルモデルに変化をもたらしているように見える。つまり、「関係性」→「問い」という方向性もあるように思える。言い換えると、心理的安全性が Growth Mindset に影響を与えるということである。ODとADの基礎にある思想として、ヴィゴツキーとバフチンの対話の概念がある。ヴィゴツキーとバフチンの思想を補完的に組み合わせ、精神の社会文化的アプローチの全体像を描いたのはワーチ⁽⁷⁾のだが、ODとADはこの流れを汲んでいるといっていよう。

ヴィゴツキーは、社会的(たとえば、お母さんと子どもの間)に生じた発話という行為が、次の段階として内的な思考になっていくという、言語の社会的起源を提唱した。これは私たちが大人になっても受け継いでおり、他者と外的に対話しているそのこ

とばを、同時に内的な対話としても聴いていることになる。

バフチンによると、ダイアログはアイデアを生む培地であり、意味がつけられていくのは、その場の人たちの間のやりとりと個別性の中においてとされた。このことは、つまり、ダイアログによってそこに参加している人たちの関係性（意味づけ）も変化し、その変化を私たちは内的対話としても聴いていることになる。このことは、対話によって、関係性の変化と、メンタルモデル（世界の内的な意味づけ）の変化が同時に起こっていると考えてもよい。図1の左半分では、「問い」によってメンタルモデルが変化するというを示しているが、ダイアログによっても同様のことが起きている。これは、内的に取り込まれた対話が、一種の「問い」と同等のものとして機能していると考えられる(図2参照)。

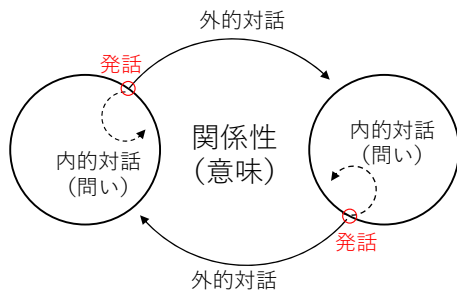


図2 ダイアログによる問いと関係性の統合

4. Identity-Based Motivation

ここまで見てきた、問いを立てることと信頼関係を創ることは、地域の問題解決型授業の中で抽出した自律的学習者を育成するための不可欠な要素である。しかし、教育機関を離れた社会人に関していうと、彼または彼女が、社会の中での自分の役割を明確に掴んでいる方が、学習に対して継続的にモチベーションを維持することが容易になる。この状況は Identity-Based Motivation (IBM)⁽⁸⁾としてモデル化されており、IBMも含めた自律的学習者の要素を図3に示す。

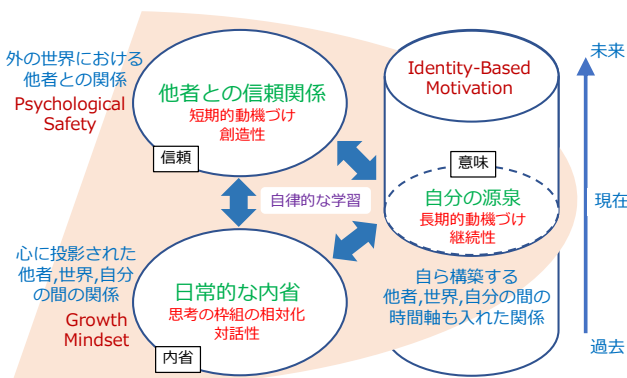


図3 自律的学習者に必要な3要素

ここでは、自律的学習者に必要な3つの要素として「内省」、「関係」、「意味」を想定している。「内省」は図2の「問いを立てるプロセス」に相当し、「関係」は「関係性を創るプロセス」に相当する。さらに、「意味」がIBMに対応している。「内省」と「関係」は、「現在」の平面内で機能しているが、「意味」は、過去に参加した複数のコミュニティの価値観を統合する形で「意味」または「Identity」が創られ、それらが未来に投影されるという形で過去から未来につながっていくというイメージを表している。図2にも「意味」ということばが見えるが、こちらは1対1または一つのコミュニティにおける関係性を示し、図3の「意味」は、複数のコミュニティの価値観を統合した自分の意味づけを示している。

未来に投影できるような Identity を形成する場合には、メンターやコーチがサポートする場合も多く、図2で示す外的対話が重要になる。また、当然外的対話を契機として内的対話も起きているので、Identity や意味の形成に関しても、対話は重要な役割を果たすと考えられる。

5. まとめ

自律的学習者育成を目的とした地域の問題解決型授業から出発して、対話の果たす役割を考察した。その結果、自律的学習者育成の観点からみると、ダイアログには以下の機能があると考えられる。

- (1) 他者との信頼関係を創る (信頼)
- (2) 問いを立てメンタルモデルを変える (内省)
- (3) 自分の源を探り人生に意味を与える (意味)

以上は現在のところ仮説であり、今後、ダイアログを授業に取り入れ、このモデルを実証的に検証していく予定である。

謝辞

本研究は科学研究費補助金(課題番号 16K12794 および 16H03083)の助成を受けている。

参考文献

- (1) 山川修ら、「ディープ・アクティブラーニングのための問いと関係性のデザインと実践I」, 日本教育工学会研究報告集, JSET17-1, pp.703-708, (2017).
- (2) 山川修, 田中洋一, 谷内眞之助, 「学習において「問い」と「関係性」が果たす役割」, 教育システム情報学会全国大会講演論文集, pp. 307-308, (2017).
- (3) 山川修, 「「問い」と「関係性」を結びつける「対話」に関する一考察」, 日本教育工学会第33回全国大会講演論文集, pp.541-542, (2017).
- (4) キャロル・ドゥエック, 「「やればできる!」の研究」, 草思社, (2008).
- (5) エイミー・エドモンドソン, 「チームが機能するとはどういうことか」, 英治出版, (2014).
- (6) ヤーコ・セイックラ, トム・アーンキル, 「オープンダイアログ」, 日本評論社, (2016).
- (7) ジェームス・ワーチ, 「心の声」, 福村出版, (2004).
- (8) Daphna Oyserman & Mesmin Destin, "Identity-based motivation: Implications for intervention", *Couns Psychol.* 38(7), pp.1001-1043, (2010).